

スコールの凄まじさ

日本には雨が集中して降る季節がある。桜満開時に1日中しとしとそれも2~3日降り続き、せつかくの花見も風にも吹かれて終わってしまう菜種梅雨。そして6・7月にかけて10日も20日もじとじと降り続き家の中まで湿気にカビさえ発生する梅雨。9月になれば暴風雨で家を倒し土砂崩れが起こり大災害となる台風。そして雨が雪に変わる雪害。日本はこのように様々な雨と闘い続けてきた歴史を持つ。

マレーシア、シンガポールに1週間ばかり滞在した。その間、毎日必ず強烈な雨に遭遇した。車か建物の中にはない限り、外で傘をさしてとても歩けるような雨ではなかった。まるでバケツをひっくり返したような雨だ。黒い雲が現れポツリポツリと来ると、急にドカーンと土砂降りの雨となる。しかし30分程もすると止んでしまう。ここシンガポールは赤道直下であり、1年を通して高温多湿の常夏の国で雨季と乾季に分かれている。

私が訪ねたのは雨季(10月~3月)であった。時刻は夕方近く。買い物を終えて外へ出ようとした時、土砂降りの雨で100m先も見えない。道路は川のように流れ風も強く、全くのお手上げとなる。レストランで珈琲を飲みながら待った。不思議なことにあれだけの雨がピツタと止み、道路の水も見事に掃けていた。人間にとっては厳しい雨も草木にとっては恵みとなる。周りは熱帯雨林に育つ草木が多い。よく見てみると確かに喜んでいるように見えた。



撮影 2014 年秋

